

地域再生計画（污水处理施設整備交付金）事後評価調査

都道府県名	京都府	事業実施主体	宇治市	地域再生計画名	「みどりゆたかな住みたい、住んでよかった都市」の創造（第2期）
計画期間	平成22年度～平成26年度	評価責任者	宇治市上下水道部長 中谷 俊哉		

	指標		基準値		中間目標値			最終目標値		事後評価	最終目標値の実現状況に関する評価
			基準年度		年度	中間実績	基準年度	最終実績			
地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標1	計画期間内に污水处理人口普及率を73.0%から90.0%に向上させる。	73.0(%)	H21	-	-	-	90.0(%)	H26	90.1(%)	污水处理施設整備交付金を活用し、住居地域を中心に整備することで目標値を達成できた。
	指標2	浄化槽（個人設置型）を100基設置する。	-	-	-	-	-	100(基)	H26	51(基)	浄化槽設置整備事業補助金制度のPRを行うことで設置を促してきたが、家屋の増改築時に浄化槽を設置したい意向が強く、目標達成に至らなかった。
地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況	指標1	市内中小河川（10河川）のBOD年平均を基準年測定値より減少させる	4.9(mg/l)	H21	-	-	-	-	H26	4.2(mg/l)	公共用水域の水質保全に関する指標について、中小河川では改善の兆候が見られる。
	指標2	家庭系のごみ排出量を基準値より減少させる	528(g/人・日)	H21	-	-	-	-	H26	479(g/人・日)	家庭系ごみ排出量を基準値と比較すると減少傾向が見られる。

事業の進捗状況	事業名	整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価
		計画	中間年度（H）	最終実績	
特別措置を適用して行う事業	公共下水道整備事業（東宇治処理区、槇島処理分区）	延長 L=29,200m	-	延長 L=26,960m	事業実施段階において住居地域を中心に整備するなどの効率的な整備を行ったことによって、污水处理人口普及率は、目標値を達成することができた。今後も、引き続き污水处理施設整備交付金を活用し効率的に未整備箇所の整備に取り組む必要がある。
	個人設置型浄化槽整備事業	箇所数 100基	-	箇所数 51基	個人設置に対する補助制度のため、年度毎の申請の増減幅が大きく目標設定が難しい。また、公共下水道事業計画区域拡大に伴い浄化槽整備区域が縮小したことも設置箇所数減少の要因である。ただし、家屋の増改築時に浄化槽を設置したいという意向が強くあり、将来的なニーズは高くなると考えられるため、継続的な事業実施は必要である。
その他の事業	地域美化清掃活動「クリーン宇治」	宇治市内各種団体および市民ボランティアにより清掃活動を行う			宇治川周辺を中心に継続的に活動することで「ごみのポイ捨てが発生しにくい環境づくり」に貢献している。ただし、期間内で河川改修工事が継続的に施工されているため、区域の縮小による実施となった。
	ポケットパーク緑化活動	地域住民等によりポケットパークの植樹および日常の維持管理を行う			ボランティア活動により、まちかどにやすらぎ空間を創造している。今後も、資材や花苗の提供などの支援を継続する必要がある。
計画外で独自に実施した事業	社会資本整備総合交付金事業	宇治川周辺地区以外の公共下水道および東宇治浄化センターの整備を実施			污水处理施設整備交付金事業とともに、宇治市公共下水道を整備しており、今後も早期の整備完了にむけて事業実施を行う必要がある。

評価方法 事後評価会議を開催後、宇治市公共下水道事業懇話会により第三者の意見を求め、最終目標値の実現状況に関する評価・検討等を行った。

事後評価の公表方法 宇治市上下水道部下水道計画課のホームページに掲載及び下水道計画課窓口での閲覧

計画全体の総合評価 地域再生計画および社会資本総合整備計画に基づく事業の実施により、公共下水道污水处理人口普及率については目標を達成することができた。浄化槽の設置件数については、目標を達成することができなかったが、浄化槽設置整備事業補助金制度のPRについてはこれまでより実施してきたことから、市民にはより浸透したと考えられる。また、その他事業についても計画期間を通じて継続的に活動出来ており、生活環境・自然環境の保全に寄与しているものである。

今後の方針等 引き続き污水处理施設整備交付金を活用し、公共下水道については、地域・地形の特性を考慮しながら、より効果的な整備手法について検討し、合併浄化槽については、浄化槽設置整備事業補助金制度のPR活動を充実させることにより設置件数の向上を促すことで、公共用水域の水質保全や水辺環境の改善を図っていく。また、引き続き地域美化清掃活動やポケットパーク緑化活動を継続的に行い生活環境・自然環境の保全を図っていく。